

脱炭素でリース安く

S M F L、米国船に変動料金

三井住友ファイナン
ス&リース(S M F
L)は、月内に船舶の
二酸化炭素(CO₂)
削減実績に応じて料金
が変動するリースを実



行する。まず月内に
「サステナブル・リン
ク・リース」として、
米国の海運大手の中古
バラ積み運搬船を対象
に行う。CO₂削減度
の評価は、金融機関が
海運業界の脱炭素を後
押しする国際的枠組み
「ポセイドン原則」に
基づく。同原則とリー
ス料を連動させた取引
は世界初とみられる。

▲
対象の中古船舶。ポセ
イドン原則連動リース
は世界初とみられる

S M F Lが顧客から
バラ積み運搬船を20億
円で買い取り、同一顧
客にリースする「セー
ル&リースバック」に
グリーン条項を付け
た。脱炭素の達成度合
いに応じて金利を下げ
る。

リース料は毎年見直
す。同社が加盟するポ
セイドン原則の脱炭素
評価式を適用する。国
際海事機関(IMO)の
脱炭素目標(2050
年に08年比半減)を基

にした基準値に対し、
対象船舶のCO₂排出
量がどれほど乖離する
かを計算する。前年実
績との改善度合いとリ
ース料をひも付ける。
顧客はサステナブル
・リンク・リースの採
用で脱炭素の取り組み
意欲を高められ、S M
F Lは海運顧客の脱炭
素を後押しできる利点
がある。

大型船舶は重油燃料
が多く、脱炭素が最大
の課題の一つ。I M O

は今世紀中の排出ゼロ
を目指す。ポセイドン
原則は、19年に欧州の
銀行を中心に11行で発
足した。邦銀は20年の
三井住友信託銀行をは
じめ、21年に三井住友
銀行、三菱UFJ銀

行、新生銀行と参画が
相次ぐ。S M F Lは20
年にリース会社で初め
て署名した。